

近代英語協会ニューズレター

2012年(平成24年)12月21日

近代英語協会事務局

〒732-0063 広島市東区牛田東 4-13-1

広島女学院大学大学院言語文化研究科

英米言語文化専攻米倉研究室内

協会ホームページ <http://www.modernenglish.jp/index.html>

(電話: 082-228-0386 大代表)

年会費振替口座 00810-9-5821)

30周年記念事業寄付金振替口座 00830-8-190834

1 近代英語協会第30回大会について

第30回大会は、2013年7月6日(土)に、愛知大学名古屋キャンパス(JR名古屋駅から徒歩10分)において開催されます。

シンポジウムは、「HTOEDを用いた英語史研究(仮題)」という統一テーマの下、慶應義塾大学教授 小倉美知子先生に司会と講師(古英語担当)を、広島女学院大学教授 米倉 綽先生(中英語担当)、立正大学教授 児馬 修先生(近代英語以降担当)に講師を務めていただきます。

開催校の川端朋広教授には、常任理事会というトップ機関で本協会と大会の意義について力説いただくなど、数々のご尽力の上で管理機構の了承を得、大会会場の確保が可能となりました。ご尽力に対し、ここに厚く御礼申し上げます。

個人研究発表の締め切りは2013年1月31日(木)です。発表をご希望の方は、(a)発表題目と300字程度の要旨、(b)氏名・所属・職位・略歴・連絡先(住所、電話番号、e-mailアドレス)を別文書として作成し、下記宛てにお申し込み下さい。

(ア) 電子メールによる応募

- ・(a) MSWord 文書、及びその pdf. ファイルを添付。
- ・(b) MSWord 文書のみ。
- ・打ち出し原稿郵送不要

宛先 nakamura@for.aichi-pu.ac.jp

(イ) 郵送による応募

- ・MSWord で作成された(a), (b)を入れたフロッピーディスクまたは CD-R
- ・打ち出し原稿

宛先 〒480-1198

愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522 - 3

愛知県立大学外国語学部

中村不二夫

2 『近代英語研究』第 29 号の発行について

6 編の論文、1 編の研究ノート、2 編の書評のご投稿がありました。ご応募いただきありがとうございました。編集委員会の厳正なる審査結果は次のとおりです。2013 年 5 月の発行を目指して、現在編集作業が進められております。

	論文	研究ノート	書評
掲載可	1		
再審査	4		2
掲載不可	1	1	

3 『近代英語研究』第 30 号の投稿締め切りについて

第 30 号 (2014 年 5 月発行) の投稿締め切りは 2013 年 9 月 15 日 となっております。ふるってご応募ください。審査はすべて匿名で行われます。応募要領は、協会ホームページ左下「出版物」の中の「投稿要領」、あるいは、協会誌最新号の奥付の前の 2 ページ分をご覧ください。

第 30 号からの編集は、新会長に指名された新編集幹事が担当しますが、電子ファイルによる応募は、担当者の決定を待つことなく下のメールアドレスにご応募いただけます。郵送による送付先は、新会長の決まる第 30 回大会の総会、ニューズレター夏号、夏号の協会ホームページへの掲載までお待ちください。

sme.meajapan@gmail.com

4 新編集委員長について

新委員長として、太田 聡先生 (山口大学教授) が選出されました。任期は、2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日の 1 年間です。どうぞよろしく願いいたします。

5 編集委員の交替について

2013 年 3 月末日をもって、編集委員の今林 修、内田充美、中川 憲、浮網茂信、水野江依子、柳 朋宏の 6 氏 (五十音順) が任期満了となります。2 期 4 年間に亘り、協会の運営にご尽力いただきありがとうございました。

これを受けて、編集委員会では、新たに石川一久 (愛知学院大学)、川端朋広 (愛知大学)、高口圭轉 (安田女子大学)、澤田真由美 (愛知学院大学)、榎田裕加 (中部大学)、松原史典 (高知大学) の 6 氏 (五十音順) が新委員に選出されました。どうぞよろしく願いいたします。

6 近代英語協会最優秀新人賞ならびに優秀学術奨励賞について

『近代英語研究』第28号掲載論文の中から、靱山陽子氏（愛知県立芸術大学大学院博士後期課程）の「初期近代英語期の声楽作品による当時の発音の推定」（『近代英語研究』第28号, pp. 1-22）に優秀学術奨励賞が授与されることは、既に総会とニューズレター夏号でお知らせしたとおりです。授賞理由を本ニューズレターに掲載することになっておりましたので、ここに記します。

授賞理由

録音資料が残っているわけではない昔の発音を推定する場合、従来の研究では、綴り字と押韻関係や正音学者達の記述を基にすることが主であった。これに対して、本論文は、初期近代英語期にイギリスで盛んに作られたマドリガル（*madrigal*）という声楽作品の楽譜に注目して、当時の発音を推定しようという試みであり、その視点のユニークさは高く評価できる。また、歌詞の発音について楽譜と対応させながら論じた研究は非常に少ないので、本論文には希少価値もあると言える。

楽譜から得られる音の高さや長さ、リズムや音符の数などの情報を基に、当時の発音がある程度推定できるということは大変興味深い。今後、より包括的で深い分析が行われれば、古音価を推定する新しい手法の確立へとつながっていくことが大いに期待できる。

しかしながら、様々な可能性を吟味することなくあっさり結論を出しているため、十分に納得がいかず、やや疑問や矛盾を感じる箇所があった。また、本論の主張にあまり関係のない例を不用意に提示するなど、議論の展開が少し雑になっているところもあった。

以上より、本論文は、残念ながら最優秀新人賞には至らない。しかし、これまではほとんど用いられなかった新たな手法・資料によって初期近代英語期の発音を推定しようとした意欲作であり、優秀学術奨励賞にふさわしいと判断する。

— 『近代英語研究』編集委員会

なお、次号、第29号分の受賞者の有無は、第30回大会および来夏のニューズレターでお知らせします。

既にご案内のとおり、賞には、最優秀新人賞と優秀学術奨励賞の2種類があります。若手による当該年度の掲載論文の中から、前者は特に秀でていた論文に、後者は、最優秀新人賞には至らないが将来性を感じさせ優れていると評価された論文に与えられます。論文応募の際、「執筆者情報ファイル」の該当欄に（√）をご記入いただくだけで結構です。選考対象は、「協会誌への掲載が可となった、投稿締切日時時点で37歳以下の、または修士号取得後10年以内の執筆者による論文のうち、原稿応募時に「執筆者情報ファイル」において賞の選考を希望する意思が表明されていた論文」（選考規程第2条より）です。

7 論文投稿・研究発表応募に関するお願い

編集委員会から、入念な英文チェックがなされていない原稿がここ数年増えてきているのでニューズレターで周知徹底してほしいという依頼がありました。『近代英語研究』投稿規定に明記されておりますように、英語論文については、英語を母語としない投稿者は投稿前に必ずネイティブ・スピーカーによる原稿の入念なチェックを受けた上でご応募ください。また、他誌への二重投稿はもちろん、他学会研究発表への二重応募も絶対にお止めください。

8 会費納入のお願い

本年4月に大会資料をお届けした折、また、ニューズレター夏号をお届けした際に、本年度分の会費のみならず、2009年-2011年分の会費の督促もいたしましたところ、過年度分も含め、ほとんどの方が納入くださいました。何かと物入りな折、誠にありがとうございます。健全な協会運営をおこなうことができます。

しかし、いまだに、11月末日までの期限であったにもかかわらず、2009年-2011年分の未納会費の請求にお応えいただけなかった方が29名いらっしゃいます。予告どおり、退会処理手続きに入ろうかと考えましたが、機械的処理を行うには忍びなく、会長のご助言もあり、2013年2月末日までお待ちすることといたしました。「過去3年間会費未納の会員を自然退会とみなす。」という2002年の理事会決定を機会あるごとにお知らせしてまいりましたが、この決定は、3年間未納を続けた場合にのみ退会処理されるという決定ではありません。3年を単位として、3年間の間に必ず3年分の会費をお納めくださいという趣旨です。ある年度分を払わなくともよいという学会は存在しないと考えます。

2009年-2011年分の会費が未納である方々にも、振込用紙と本年11月末日までの過去の納入記録を同封いたしました。どうか、これら3年間の未納分を全額お支払いください。2013年2月末日までに納入いただけない場合は、新年度の大会開催資料をご送付できません。

かつて大会会場で支払われた折の、通し番号のついた領収証の半券や、郵便局からの、通し番号のついた過去の払込通知は事務局に保管してあります。ご不審な場合は、nakamura@for.aichi-pu.ac.jpへお問い合わせください。

2012年度分の会費を振り込んでいらっしゃらない方が多数いらっしゃいます。こちらは3月末が期限です。

9 『近代英語研究』電子アーカイブ化

独立行政法人科学技術振興機構のサイトに、『近代英語研究』が電子アーカイブ化されました。次のサイトにアクセスしていただければ、創刊号から第23号(2007)までの論考をパソコン画面上でお読みいただいたり、印刷して活用したりしていただけます。

- ・「journal@rchive」と入力

- ・「journal@rchive - J-Stage - 科学技術振興機構」を左クリック
- ・「Japanese」を選択
- ・右上「誌名」ボックスに「近代英語研究」と入力し、「検索」をクリック
- ・青字の「近代英語研究」を左クリック
- ・画面左端の「巻号一覧 近代英語研究」からお探しの号を左クリックし、目指す論考の「本文 PDF」を左クリックしてください。

本協会は、ご論考がインターネット上に出回ることに対しご異議がある場合はご連絡くださいと、ニューズレターと協会ホームページによりお願いしてまいりました。本日まで、どなたからも取り下げ要求はありませんでしたが、何らかのご事情でこの件をお知りになる機会がなかった場合には、改めて柔軟に対応させていただきます。文書または電子メールにて本協会事務局にお申し出ください。なお、今後刊行する本誌におきましても、すべての著作権は本協会に帰属することをご承認いただきたく存じます。

10 30周年記念論文集について

ニューズレター本年夏号でご案内しましたとおり、1983年5月に産声を上げた近代英語協会は、2013年5月にめでたく創設30周年を迎えます。30周年記念行事の一環として、『近代英語研究第30号』とは別に、30周年記念論文集を刊行します。

執筆要領等は既に、総会、夏号、ホームページでお知らせしたとおりですが、新規会員の方もいらっしゃるしますので、ここに要点を繰り返します。

<執筆要領>

- 未発表の論文に限る。使用言語は英語とする。
- 依頼原稿を除き、全ての原稿は審査される。
- 原稿については、A4用紙を使用し、MS Wordのデフォルト値にしたがって、上35mm、下左右は30mmの余白をあげ、1ページ半角80字×31行、フォントはTimes New Romanで、タイトルは14ポイント、それ以外は12ポイントで設定する。タイトルのつけ方、Abstract(150語以内)の提示の仕方、見出しのつけ方、樹形図・表・用例の提示の仕方、行間の取り方、注番号のつけ方等については、Sample.doc(協会ホームページからアクセスできます)をモデルとする。
- タイトル・Abstract・本文・図表・注・参考文献等すべてを含めて、15ページ以内とする。
- 原稿の受付は2013年8月15日を締め切りとする。編集幹事(hideshi.ohno@gmail.com)宛に電子メールで、次の2種類のMS Wordファイルを送ること：①原稿本体、②執筆者の情報(氏名、論文タイトル、略歴、住所、電話番号、所属先、メールアドレス)と部門名(「音韻論」「形態論」「語彙論」「統語論」「語用論」「意味論」「文体論」等)。
- 投稿時に打ち出し原稿を①、②ともに1部ずつ提出すること。なお、①の表紙右上

に部門名を朱書すること。締め切り日は2013年8月15日とする。

- 宛先：
〒712-8505
倉敷市連島町西之浦 2640
倉敷芸術科学大学 産業科学技術学部 大野英志
電話・FAX 086-440-1174

<刊行までの主な流れ>

2012年

5月25日	執筆要領・見本の決定
7月	ニューズレター夏号、ホームページによる投稿案内
8月1日	寄付金受付開始
12月	ニューズレター冬号による投稿案内

2013年

4月1日	原稿募集開始
8月15日	応募論文、依頼原稿締切り（厳守、特例なし、消印・電子メールによる送信は深夜0時まで有効、打ち出し原稿は消印有効）
11月	掲載可否の通知、e-mailの添付ファイル（またはFD）による論文送付依頼、書き直し依頼
12月中頃	再査読依頼

2014年

1月初旬	再審査結果報告
1月中旬	査読結果の通知、e-mailの添付ファイル（またはFD）による論文送付依頼
1月末	すべての原稿の添付ファイル（またはFD）到着、表紙・目次・奥付等の作成
2月	CD-ROM作成
3月	出版社へ入稿
5月上旬	刊行

<御寄付のお願い>

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、夏のニューズレターで近代英語協会設立30周年記念論文集のご案内と寄付のお願いを差し上げましたところ、11月末日現在、10名の方々より合計100,000円のご寄付をいただきました。厚く御礼を申し上げます。現時点で目標額の約10分の1が集まりましたことに、深く感謝申し上げます。本来ならば、お一人お一人に直接御礼を申し上げるべきところ、少しでも支出を抑えたいとの理由から、本状をもって謝意に代えさせていただきます。心より御礼を申し上げます。

先回も申しあげましたとおり、この記念論文集は、出版社の後ろ盾が全くございません。出版に関わる費用の一切を寄付金と執筆者負担によって賄わなければなりません。そこで、この記念号がめでたく刊行の運びとなるよう、この場をお借りし、再度筆を執らせていただきました。同封の振込用紙にて、篤いお志を頂戴できますれば幸甚に存じます。目標額の達成に向けて2013年7月末日まで募金活動を続けてまいります、早めにご寄付を頂戴できますれば、見通しを立てることができます。どうか会員の皆様には重ねてご協力のほどをお願い申し上げる次第でございます。

なお、積極的に海外に発信するために、理事会は30周年記念論文集を全編英語で統一することを決定しております。本記念号が諸外国の同好の志の目に触れることを願うのであります。どうか、奮って玉稿をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

景気低迷の折、誠に勝手なお願いであることは重々承知してはおりますが、どうか趣旨をお汲みいただき、ご厚情を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

時節柄ご自愛の程をお祈り申し上げます。

2012年12月1日
近代英語協会
会長 米倉 綽

11 追悼

以前、ニューズレター過年度号と協会ホームページにより、協会の発起人であり、協会の発展にご尽力いただいた、広島大学名誉教授河井迪男先生、次いで東京学芸大学名誉教授宇賀治正朋先生の訃報をお伝えいたしました。理事会では、両先生のご功績を讃え、本ニューズレターにて追悼の意を表することが決定され、薫陶を受けたお二人の理事、中尾佳行先生、児馬 修先生から原稿をいただきました。限られたスペースの中で、中尾先生からはご略歴とご業績一覧を、児馬先生からは追悼文をご寄稿いただきました。ここに、生前のご功績を讃えるとともに、改めてご冥福をお祈り申し上げたいと存じます。（五十音順）

【河井迪男先生を偲ぶ】

ご略歴

- 1929年12月22日 大阪市に生まれる
- 1949年3月 大阪第一師範本科卒業
- 1949年4月 広島文理科大学文学科（英語学英文学専攻）入学
- 1952年3月 同上卒業
- 1952年4月 大阪学芸大学助手（学芸学部）
- 1955年4月 広島大学助手（文学部）

1960年9月より1961年9月までシカゴ大学フェロウシップにより同大学院に留学、引き続き1962年9月までハーヴァード大学招聘研究員として渡米
1965年4月 広島大学助教授（文学部）
1965年4月 大学院文学研究科担当
1977年4月 大学院教育学研究科担当
1980年10月 広島大学教授（文学部）
1984年7月より同年9月まで文部省在外研究員として連合王国および北欧8ヶ国に出張
1993年3月 定年により退官
1993年4月 広島大学及び甲南大学から名誉教授の称号を授与される

学会活動

1980～90年 日本英文学会評議員
1987～93年 日本英文学会中国四国支部長
1987年～2001年 日本英語学会評議員
1984～95年 近代英語協会理事
1986年～96年 日本エドワード・サピア協会理事

代表的なご業績

I. 論文

“Some Aspects of D.H. Lawrence’s Prose Style” 『大阪学芸大学紀要』 人文科学
第3号 1954年3月
“An Instance of Malapropism” 広島大学英文学会 『英語英文学研究』 第3巻
第2号 1956年10月
“Notes on the Language of *Joseph Andrews*” 『山本忠雄先生学士院賞受賞記念英語
英文学研究』 研究社 1957年2月
“Some Notes on the Antiquated Language in *The Vicar of Wakefield*” 関西大学
英語学会『ANGLICA』 第3巻 第2号 1958年2月
“The ‘Scurrilous’ Language of *The London Spy*” 関西大学英語学会 ANGLICA
第5巻 第1号 1962年11月
“Style and Language in *Humphry Clinker*” 広島大学英文学会 『英語英文学研究』
第12巻 第1号 1965年11月
“Proverb Lore in Deloney’s Novels” 『広島大学文学部紀要』 第27巻 第2号
1967年12月
「Micawber 氏の英語について」 榊井迪夫・田辺昌美編 『ディケンズ没後百年記念
論文集 ディケンズの文学と言語』 三省堂 1972年12月
“The Language of Satire in Smollet’s Novels” 『東田千秋教授還暦記念論文集 言語
と文体』 大阪教育図書 1974年10月
「十八世紀のイギリス—社会と言語—」 英潮社 『英語文学世界』 第10巻 第13号

1976年2月

“Linguistic Criticism in *The World* (1753-6)” 『広島大学文学部紀要』 第40巻
1980年12月

“Modes of Swearing in Eighteenth-Century Drama” 『榊井迪夫先生退官記念論文集
英語英文学研究』 研究社 1980年12月

「イギリス小説における会話の言語と文体」 吉田敬一編 『レトリックと文体』 丸善
1983年4月

「小説における会話の言語と文体」 近代英語協会 『近代英語研究』 第1号
1984年9月

「近代英語におけるコロケーションとイディオム」 秋元実治編 『コロケーションと
イディオム—その形成と発達』 第6章 英潮社 1994年11月

II. 辞書・辞典 (分担執筆)

『英語表現辞典』 研究社 1969年6月

『英和大辞典』 (大改訂新版)』 研究社 1980年11月

『岩波英和大辞典』 岩波書店 1981年2月

『オックスフォード・カラー英和大辞典』 (全8巻) 福田陸太郎・片山嘉雄編
1982年1~10月

大塚高信・中島文雄監修 『新英語学辞典』 研究社 1982年11月

松浪 有・池上嘉彦・今井邦彦編 『大修館英語学事典』 大修館書店 1983年7月

III. 書評

V. K. Gokak: *The Poetic Approach to Language*. 大阪学芸大学 『英文学会誌』 No. 2
1955年2月

James R. Sutherland: *On English Prose* 研究社 『英文法研究』 第2巻 第11号
1959年2月

Helge Kökeritz: *Shakespeare's Names* 研究社 『英文法研究』 第3巻 第7号
1959年10月

N. E. Osselton: *Branded Words in English Dictionaries before Johnson*
研究社 『英文法研究』 第4巻 第3号 1960年6月

IV. その他

「血のかよった英語学—山本忠雄氏—」 南雲堂 『不死鳥通信』 第16号 1960年1月

「最近の18世紀英語研究」 『広島大学文学部紀要』 第23巻 第3号 1964年8月

「最近の18世紀英語研究から」 日本英文学会 『英文学研究』 第41巻 第1号
1964年8月

Oliver Goldsmith: *The Bee* 藤井達之氏と共編注 アポロン社 1965年4月

「‘Living Philology’のために」 広島大学大学院文学研究科英文学会 *Phoenix*
第7号 1968年2月

「文体論と私」 広島大学大学院文学研究科英文学会 *Phoenix* 第13号 1977年2月
A Study of English Linguistics and Philology 『英語学リーダー』 英宝社
1986年2月

「英語学」 (解説) 『広島大学文理大英語英文学研究室編 英語英文學論叢 (丸善)』
(復刻版) 名著普及会 1986年2月

松浪 有編 『英語史』 第4章 「近代英語初期」 を担当 大修館書店 1986年5月
大泉昭夫編集 『英語史・歴史英語学』 寺澤芳雄監修 <英語学文献解題 第3巻>

C.L. Barber, B. Holmberg, O. Jespersen, H. C. Wyld の4書の解題 1997年7月
Language and Style in English Literature: Essays in Honour of Michio Masui
(榊井迪夫先生喜寿記念論文集) 編集代表 英宝社 1991年12月

「小伝」 (榊井迪夫先生追悼文) 1992年10月

「廣岡英雄先生点描」 『英語・英文学への賛歌—廣岡英雄先生喜寿論文集—』 英宝社
1994年9月

「18世紀の Bath」 『甲南女子大学英文学会会報』 第31号 1994年12月

「女性と英語—管見—」 『甲南女子大学大学院英文学論集』 VIII 1996年3月

一覧作成にあたり、次の文献を参照いたしました。ここに厚く御礼申し上げます。

『河井迪男先生退官記念 英語英文学研究』 (*Essays on English Language and Literature in Honour of Michio Kawai*) 英宝社 1993

『甲南女子大学英文学研究』 (第三十九号) 河井迪男教授・私市元宏教授退職記念号 (甲南女子大学英文学会)、2003 (pp.11-17)

—中尾佳行

【宇賀治正朋先生を偲ぶ】

本学会顧問の宇賀治正朋先生が、2011年10月22日転移性肝腫瘍のためご逝去されました。享年80歳でした。

先生は1931年に新潟県三条市にお生まれになりました。1954年に東京教育大学文学部英語学英米文学専攻を卒業され、その後、同大学大学院に進学され、1958年に小樽商科大学商学部講師として着任されました。小樽商大在職中にミシガン大学に留学され、その後、東北大学教養部(1965-1968年)を経て、1968年に母校の東京教育大学文学部助教授として迎えられました。1975年に東京教育大学の廃学に伴い、東京学芸大学に移られ、定年退職まで20年間勤務されました。定年後は鶴見大学文学部に移られ、2002年に退職されました。

先生は、歴史英語学の分野、特に、初期近代英語の統語論に関する数多くのすぐれた著書・論文を発表され、我が国のこの分野における研究の進展に著しい貢献をされました。以下に主な著書のみを簡単に紹介させていただきます。

1978年に出版した *Imperative Sentences in Early Modern English* (邦題『初期近代英語の命令文—史的統語法研究』開拓社) は、英語の史的研究において、文法理論に基づく厳密な分析手法と精緻な資料観察を融合させた画期的な業績であり、初期近代英語の命令文に関する理解を深めるだけでなく、英語史の研究法にとっても新たな規範を示されました。同書は、当該分野における基本的参考文献の地位を獲得しており、*English Studies* の書評 (Liliane Haegemanによる) にも取り上げられるなど、海外の研究者によってもしばしば引用・言及されています。なお、これにより1979年に市河賞を受賞されました。

1984年には、『英語史 IIIA』(太田朗編集「英語学大系」第10巻、荒木一雄との共著) を出版されました。近代英語の文法に関し、それまでの膨大な先行研究を吟味して整理すると共に、自身の研究成果も盛り込み、同分野に関する研究の到達点を集大成した内容となっています。同書は、同大系の他の巻と共に、日本における英語学研究の水準の高さを実証しており、英語史の専門家にとっては、研究を更に前進させるための出発点として、必読文献の一つとなっています。

2000年には、『英語史』(安井稔監修「現代の英語学シリーズ」第8巻) を出版されました。英語の誕生から現在に至るまでの通史の要諦を、語彙、音声、形態、文法の諸相にわたり見事に描き出した労作です。記述の平明さと、英国の社会情勢と言語変化の關係に類書より詳しく触れている点が特色で、最新の研究成果を取り入れた研究書としての面と、専門外の人にも親しめる啓蒙書としての面を併せ持っています。本書により、日本の若き英語学徒は、難解な英語史への格好の手引きを得ることとなりました。

2010年には、研究社より『文法I』(寺澤芳雄監修「英語学文献解題」第4巻) を出版されました。この著作は16世紀後半から今日に至るまでの伝統文法(学校文法)書を扱った書誌学的な著作で、英文法の源流を探り、英文法の発展を通時的に跡付けることに成功した意義深い業績です。数多くの解題執筆者の協力を得ながら、先生自らも専門領域でもある16世紀—18世紀の文法書の解題執筆にあたられました。なお、先生は本書の出版後も病魔と闘いながら、本書には含められなかった16世紀以前、さらには、古代ギリシャ・ローマ時代にまで遡り、文法(言語)研究の源流についてさらに研究を継続され、ご逝去の後、2012年に研究社より『英文法学史』を自費出版されました。

宇賀治先生は本務校であった小樽商科大学、東北大学、東京教育大学、東京学芸大学、鶴見大学のみならず、集中講義などで北海道大学、藤女子大学、東京大学、日本女子大学、創価大学、筑波大学、名古屋大学、京都大学、広島大学、九州大学など、多くの大学で教壇に立ち、(歴史)英語学研究の面白さやその意義を伝えることによって、多くの学生・研究者に多大な影響を与えました。

学会におきましても、先生は目覚ましいご活躍をされました。日本英文学会では1975年には編集委員を、その任期後半には編集委員長(1978-1979)を務められました。同学会で指導的役割を果たされたことは、『日本英文学会 50年小史』に収められている、

座談会「日本英文学会の現状と展望」にメンバーとして参加されたことから明らかです。

日本英語学会では編集委員（1983–1989）を務め、その後も理事（1988–2001）、副会長（1990–1992）、会長（1992–1996）などの要職を歴任され、2002年には顧問に就任されるなど、学会の発展に大きく貢献されました。そのご功績により、2012年の同学会30周年記念大会において、日本英語学会特別賞を受賞されました。

本学会におきましても、会発足時より理事（1983–2001）を務められ、2004年には顧問に就任されるなど、指導的な役割を果たしてこられました。一会員として、自らも多くの研究発表をされ、大会には毎回のように出席され、われわれ会員の発表に対しても、懇切丁寧なコメントと心温まる激励のことばを常にいただきました。先生の達筆な書体でぎっしりと書き込まれたコメントを書簡などで受け取られ、それを生涯大切に保管されている会員の方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。どなたに対しても、常に心を開いて、気さくに言葉をかけてこられた先生は、国内外を問わず、実に多くの方々に慕われてこられました。研究に関しましても、広範な分野にいつも目を向けられ、謙虚に学ぼうとされる姿勢を最後までくずされませんでした。そのような先生の在りし日のお姿を偲びつつ、心より、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

一兒馬 修

12 事務局より

毎回、何通かの封筒が戻ってきます。住所、所属、会員資格等に変更が生じた場合、速やかに事務局長までお知らせください。私の調査には限界がありますし、郵送費の二重の支出は協会にとって好ましいものではありません。

協会に関するお問い合わせとご連絡は以下にお願いいたします。なお、第30回大会終了後、新会長の下、新たな事務局が発足し、順次仕事が引き継がれていきます。9月中には引き継ぎが完了する予定です。

- 協会誌について
大野英志
(hideshi.ohno@gmail.com)
- ホームページについて
川端朋広
(kawabata@aichi-u.ac.jp)
- その他全般について
中村不二夫
(nakamura@for.aichi-pu.ac.jp)

今年度をもって退会される方には、このニューズレターが協会からの最後の郵便物となります。長きに亘り協会を支えていただき、誠にありがとうございました。

—事務局長

良い年をお迎えください。